

社会教育講座！
原爆被害を後世に語り継ぐ



8月26日、中央公民館・講堂で、社会教育講座・被爆証言講話会（教育委員会主催）が開催されました。

広島市の原爆投下により14歳の時に被爆された植田規子さん（78歳）を講師に招き、原爆被害の実相と被害体験について講話をいただきました。

参加者は、戦争の悲惨さを知り、次の世代に正しく継承し、平和意識を高める大切さを知ることが出来ました。

また、同じく2階の展示室では「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」が行われ、写真や図表で説明しているポスター30点が展示されていました。

収穫の時期が訪れました
津別高校1年生が農業体験

9月1日、午後2時から高台の畑でとうもろこし農場（代表取締役 堂藤優）の畑において、北海道津別高等学校1年生、41名が参加して「総合的な学習の時間・農業体験」が行われました。

収穫の秋、最初に「枝豆」の収穫を行い、5月に作付された「ジャガイモ（男しゃく）」の収穫体験が行われ、後日、家庭科の授業で「いも団子」を作って食べました。

今年の農作物は、猛暑や熱帯夜、長雨の影響で、収量が心配されましたが、無事終了しました。



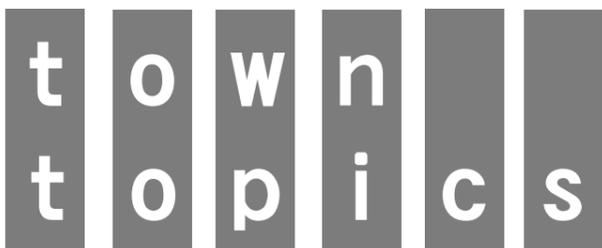
考えてみようエネルギーのこと
「エネルギーと環境」について

9月17日、津別町商工会・会議室で、津別町商工会（石橋崇司会長）と北海道エナジートーク21の主催で、地球温暖化問題をはじめ、暮らしとエネルギーについて考える講演会が開催されました。



講師の光塩学園短期大学（札幌市）準教授の平田文夫さんが、演題「エネルギーと環境」と題してわかりやすく話され、講演終了後、参加者にはエコバックのプレゼントがありました。

次世代に限りある資源と豊かな自然環境を引き継ぐため、エネルギーについて考える機会となりました。



まちのわだい

町にバンドの音が響きました
祭りだよ！全員集合！が開催！

9月5日、「祭りだよ！全員集合！inつべつ2010」（主催・水上浩介実行委員長）がレストハウスつべつ前で開催されました。

会場では「ハイブ」や「カオス」、「ザ・ブレッシャーズ」などといった5組のバンド演奏が行われ、バンド演奏の合間に東京農大の「農天授」による美しいよさこい演奏に、訪れた観衆は大いに盛り上がりました。



また、ビールや焼き鳥といった縁日コーナーも設けられ、最後に豪華商品が当たる抽選会では、大きな歓声が上がりました。会場は熱気に包まれました。

9月16日、月2回行われている寿大学の講座が中央公民館で行われ、約80名の方の参加がありました。この日は生涯学習アドバイザーの原田英機さんが講師として、雑学などを話されました。

多くの雑学を学ぶ
寿大学講座が行われました



全国大会に挑戦！
次の大会での飛躍を誓う



旭川市で開催された第27回全日本小学校ソフトテニス選手権大会に出場した佐藤璃央さん・寺尾日菜さん（津小6年生）が、8月19日、町長室へ報告に訪れました。結果は惜しくも3回戦で敗れましたが、互いにベストを尽くされました。

来年から中学生として戦うこととなりますが、次の大会に向けてすぐに練習を開始し「来年は中体連で頑張ります」と決意表明をしました。佐藤多一町長は「中学校でも全国を目指してください」と激励の言葉を贈りました。

気分はさわやか！
チミケツ湖でカヌー体験



9月12日、原始の湖・チミケツ湖で、アソビバ！つべつ（社会教育課主催）カヌー体験が開催され、4年生以上の小学生がカヌー体験をしました。

参加者は、救命胴衣を着用して、指導員からカヌーの乗り方やパドルのこぎ方の指導を受けたあと、チミケツ湖へ出発しました。

この日は、晴天に恵まれ、湖面は風もなく穏やかで、暖かい日差しを浴びて、チミケツ湖の雄大な自然と触れ合いながら楽しい一日を過ごしていました。

5年生の保路地笠弥君は「昨年も参加しましたが、最高におもしろいです」と話していました。

「すいむ」でプールまつり
水の中のゲームを楽しむ



9月4日、温水プール「すいむ」で水泳記録会とプールまつりが、幼児から中学生まで58人が参加して行われました。

記録会では、15メートル自由形で最速19秒代でゴールし、25メートル自由形でも21秒代でゴールするなどレベルの高い記録が生まれました。

後半行われたプールまつりでは、水中玉入れや浮島わり、浮島登りなどが行われました。特に大きなビート板の上に何人乗れるかを競う浮島登りでは、たくさん乗るすぎてバランスを崩し、全員落ちるとプールは幼い子や児童の笑い声が絶えませんでした。